



ARIMASS Letter

[Association for Risk Management System Studies]

危機管理システム研究学会 2010年3月
第40号

危機管理システム研究学会第10回年次大会開催にあたって

第10回年次大会実行委員長 平田 潤 (桜美林大学)

危機管理システム研究学会第10回年次大会を、6月5日(土)に桜美林大学町田キャンパスで開催させていただくことになりました。本大会は、当学会設立10周年の記念すべき大会であり、関係者一同、精一杯の努力をする所存です。

本学は、以前第2回年次大会会場になりました。都心から少し離れた町田市郊外に位置しており、会員の皆様にはやや交通のご不便をおかけしますが、万障お繰り合わせの上、ご参加くださいますよう、お願い申し上げます。

アクセスとしては、淵野辺駅(横浜線)、多摩センター駅(京王線、小田急線)、町田駅(小田急線)が最寄です。淵野辺駅、多摩センター駅からは、スクールバス(無料)がご利用でき、淵野辺駅・町田駅からは路線バスも出ています。

本学は創立者が宣教師として、中国での教育活動のため1921年設立した学園に由来し、学園名は創立者が学んだ米国のOberlin College(全米で初めて男女共学を実施)に基づくなど、米国と中国に浅からぬ縁を持つ私学です。早くから、語学教育をはじめ国際化に力を入れ、開かれた教育を行ってきました。さらに学生の可能性と学びの選択肢を拡げるため学群制を採用し、文系大学としては初めてパイロットを養成し、エアラインビジネスを学ぶ学類を設立しました。

今回10周年記念大会の統一論題は、「再生へのリスクマネジメント」に設定させていただきました。これまでの企業が関わった諸問題や事件、医療をめぐる問題、サブプライム問題で問い直された金融機関のリスク管理、災害や事故に対する予防と対策、政府の危機管理政策など、さまざまな危機に直面している現在の日本で、ますます重要性を増したリスクマネジメントにどのように向き合うか、各自・企業・組織/機関・政府等がそれぞれ見直し、「再生に向けて」考える機会を設けたいと考えております。

大会は定例の「研究発表・報告」、「分科会報告」に続き、各分科会が当学会の歩みである、2001年～2010年までをリスク年表でたどる「ポスターセッション」を企画しました。

また10周年記念のパネル・ディスカッションとして、「リスク認識の新たなる視点を確立するためのビジョン討論会」を行います。皆様方の、多くの知見を是非いただきたいと期待しております。また懇親会にも是非ご参加ください。

目 次

危機管理システム研究学会第10回年次大会にあたって	1	分科会報告	4
第10回年次大会プログラム	2	事務局からのお知らせ	10

危機管理システム研究学会第10回年次大会プログラム（案）

開催場所 桜美林大学町田キャンパス

期 日 平成22年6月5日（土） 受付開始 9:30

統一テーマ 「再生へのリスクマネジメント」

◆ 10:00~10:30 会員総会 ◆ 全体進行司会：辻 純一郎

【 10:35~17:00 研究発表報告・パネルディスカッション 】

【 10:35~11:35 研究発表・報告（セッション1） 】

座長：内田 英二（昭和大学）

第1報告 10:35~10:55（報告15分・質疑応答5分）

テーマ：「銀行におけるオペレーショナルリスク計量化の現状と課題」

報告者：笹子 善平（みずほインベスターズ証券）

第2報告 10:55~11:15（報告15分・質疑応答5分）

テーマ：「組織不祥事の原因としてのアウトソーシングに関する考察」

報告者：樋口 晴彦（警察大学校）

第3報告 11:15~11:35（報告15分・質疑応答5分）

テーマ：「高病原性の新興型インフルエンザ対策としての情報伝達に関する日台比較研究」

報告者：坪内 暁子（順天堂大学）

11:35~12:35 休憩・昼食

ポスターセッション 「分科会別リスク年表2001年~2010年」

- リスクマネジメントシステム研究分科会
- リスク事例サロン分科会
- メディカルリスクマネジメント分科会
- 企業活性化研究分科会
- 価値ベース・リスクマネジメント研究分科会

【 12:35~13:35 分科会報告 】

リスクマネジメントシステム研究分科会 : 指田 朝久（同分科会主査）

リスク事例サロン分科会 : 小島 修矢（同分科会主査代行）

メディカルリスクマネジメント分科会 : 大川 淳（同分科会主査）

企業活性化研究分科会 : 古山 徹（同分科会主査）

価値ベース・リスクマネジメント研究分科会 : 藤江 俊彦（同分科会主査）

【 13:40~14:40 研究発表・報告（セッション2） 】

座長：鈴木 敏正（日本総合研究所）

第4報告 13:40~14:00（報告15分・質疑応答5分）

テーマ：粉飾疑念企業の分析 - A社のケース -

報告者：菅原 智久（専修大学大学院商学研究科修士課程2年）

第5報告 14:00~14:20（報告15分・質疑応答5分）

テーマ：粉飾疑念企業の分析～(株)アイ・エックス・アイ循環取引について～

報告者：星野 敏之（株式会社樹徳）

第6報告 14:20~14:40（報告15分・質疑応答5分）

テーマ：「(株)アリサカがとる企業活性化の施策とは」

報告者：魚谷 竜也（キャノンマーケティングジャパン（株））

14:40~15:00 休憩

【 15:00~17:00 ビジョン討論会 】

テーマ：リスク認識の新たなる視点

司会：長濱 昭夫（桜美林大学）

出席者：①宮崎 昌和（プロティビティ）

②北澤 一保（あいおいリスクコンサルティング）

③藤谷 克己（日本医科大学）

④山本 洋信（アップライフシステム研究所）

⑤太田 三郎（千葉商科大学）

⑥下村 正人（リムライン）

17:30~19:00 懇親会 会場 別途案内予定

司会：板倉 貴治

分 科 会 報 告

【RMS（リスクマネジメントシステム）研究分科会】

主査:指田 朝久(東京海上日動リスクコンサルティング)

規格比較WGは1月20日(水)と3月2日(火)に東京海上日動リスクコンサルティングで実施しターンブル報告書の研究を行いました。次回は4月7日(水)に今年度のまとめを行います。ERM研究WGは1月19日(火)と2月22日(月)にプロティビティジャパンで実施し、今年度の報告書の検討を行いました。次回は4月12日(月)に実施します。事例研究WGは2月16日(火)に法律事務所フロンティア・ローで開催しました。テーマは不審船・海賊対応・海上保安官業務で講師は東京セキュリティーサービス株式会社特別警備担当担当部長住本祐寿氏元海上保安庁(海上保安官)にお願いしました。

【リスク事例サロン分科会】

主査代行 小島 修矢(あいおい損害保険)

分科会事務局 有賀 平(あいおい基礎研)

「リスク事例サロン分科会」はマスコミ等で取り上げられた事件や危機事例を題材に、会員間で自由に危機管理・リスクマネジメントの観点から情報交換や意見交流を行うことを目的としています。

本分科会は開催の都度参加者を募り、サロンと言う名前のおり飲食しながらテーマに関連して自由に意見交換を行う会費制の分科会です。今回は、第45回分科会の報告をいたします。

<第45回(2010年1月13日(水)午後6:30~8:30、於 東洋経済新報社 9階会議室)>

1. 参加者(10名): 中山、山本、長井、山崎、出崎、榎本、横井、大野、小島 ※敬称略
2. テーマ:PL事故対応からの教訓
3. 報告者: 有賀 平氏 (あいおい基礎研究所)
4. 報告内容骨子

PL事故の損害調査の経験を基に具体的事例を紹介、特に発生後の対応の重要性を説く。例えば、実際の事故では、原因が製造上の欠陥と設計上の欠陥とを明確に判断することが困難な場合も多いこと。また、思いこみが原因究明を遅らせて、被害の拡大をさせてしまうことがある。事故が起こってしまった場合の被害者への対応は、わかりやすいこと、統一性があること、迅速であることが大切で、どんなに予防策を講じても事故は回

避できないことを前提にリスクマネジメントを実践することが重要である。

5. 自由意見・情報交流内容(要旨)

- 海外と比較して、日本企業の PL への関心はまだ低い。海外の安全基準を視野に入れた対応が必要。
- 企業へのリスクマネジメントは、保険会社以外にも保険ブローカーも積極的に推進している。
- PL 対応でも、PDCA の考え方をとり入れたリスクマネジメントの普及が重要。
- 安全規格は、欧米は民間主導、日本は行政が主導で不自然、英国ローベンス報告を見習うべき。消費者目線で PDCA、規格などコンセンサス形成が必要。

【MRM（メディカルリスクマネジメント）分科会】

主査：大川 淳（東京医科歯科大学）

<平成 21 年度第 6 回>

1. 日時：2010 年 3 月 3 日（水）時間：18：30～20：30
2. 場所：東京医科歯科大学 安全管理対策室
3. 参加者：内田、寺本、吉川、中村、野村、藤谷、大川（順不同、敬称略）
4. 討議：

医療安全の動向からすると、すでに一般的なリスク論の時代はすぎ、「医療とガバナンス」や「医師患者関係」が現代的テーマになりつつある。医師患者関係は従来「すしやお任せ」であったが、徐々に変容しつつある。また、病院の ICU に入院してから具合が悪くなったと娘が信じている在宅患者の家では、訪問看護師がのどの奥から痰をとる行為をかわいそうといわれてしまう。

MRM 分科会の本では、こうした医師患者関係における現代的課題を企業のリスク専門家からの意見を踏まえて解析を行う予定である。

【企業活性化研究分科会】

主査：古山徹（日経メディアマーケティング）

<第 27 回>

1. 日時、場所：2010 年 1 月 23 日（土）時間：13：30～17：30 於：専修大学（神田校舎）
2. 参加者：16 名

3. 報告者1：山本 洋信
4. 報告内容1：英字論文『“Turnaround Strategies” by Charles W. Hofer』の翻訳と内容の議論
5. 報告者2：渡邊 繁生（株式会社プロネクサス）
6. 報告内容2：サンビシ株式会社について、同社の粉飾・破綻の経緯について

<第28回>

1. 日時、場所：2010年2月6日（土）時間：13：30～14：30 於：専修大学（神田校舎）
2. 参加者：12名
3. 報告者：菅原 智久（専修大学大学院）
4. 報告内容：ニイウスコー株式会社について、同社の粉飾を財務諸表上から推測することが可能か否かを検討

<第29回>（予定）

1. 日時、場所：2010年3月13日（土）時間：13：30～14：30 於：専修大学（神田校舎）

【価値ベース・リスクマネジメント研究分科会】

主査：藤江俊彦（千葉商科大学）

<第9回>

1. 開催日時 2010年1月20日（水）時間 18：30～20：30
2. 開催場所 千葉商科大学 7号館 会議室
3. 参加者 齋藤、藤江、太田、眞崎、魚谷、大塚、城山、土屋(8名)
4. 報告者 枘岡 源一郎氏（千葉商科大学教授・公認会計士）
5. テーマ 『国際財務報告基準（IFRS）について』
6. 報告内容

本報告は、2015年に日本の上場企業に強制導入される国際財務報告基準について、歴史からその特徴まで、幅広くポイントを論じた。EC諸国はもちろん米国も中国も、世界的レベルで事業を展開する企業は、国際財務報告基準を適用しなければならなくなった。

その理由を明確に次のように指摘した。すなわち、当初の国際会計基準を推進してきた国際会計基

準委員会（IASC）は、他国の会計基準も認めてきた。しかし、1989年に米国の米州証券監督者国際機構（IOSCO）が IASC をバックアップした時から、比較可能性を会計目的としたため、世界基準となった。つまり、米国の力が働いていることを指摘した。特に1会計期間の本業等における損益よりも、決算時の資産評価を重んじるものであり、まさしく投資家のための財務報告書であるといえる。究極の時価会計とも言えるのではないか。

（担当：土屋 清人）

【編集後記】

日本語は美しいと思う。昔からの言葉の1つに「傘かしげ」というのがある。これは雨の日に狭い路地で傘をさしたまますれ違う時、お互いの傘がぶつからないように、少し相手と反対の方向に傾けて、互いが通り易くするという相手を慮った行為である。他にも「七三の道」や「こぶし腰浮かせ」などが知られている（フリー百科事典ウィキペディア（Wikipedia）『江戸しぐさ』より）。こうした相手を慮る文化は長く江戸の庶民の文化と誇りだった。近頃はどうか。歩道を我物顔で暴走する自転車、濡れている傘が他人に接触していても平気な顔をしている乗客。昼間ホームでは駅員がどこにいるのかさえわからない。落とし物を発見したらインターホンで連絡する。ましてやホームに人が転落しても乗客同士で救出しないといけない始末。本当に勇敢な隣人がまだいると感心させられる。

イザヤ・ベンダサンこと山本七平氏はその著書「日本人とユダヤ人」で、日本の「安全と水はただ」と書いている。現代ではパットナム（Robert D. Putnam）を代表とする学者によって「ソーシャル・キャピタル」の概念として提唱され、「人々が持つ相互信頼や地域への愛着、団体で行動するための規範」と定義される。「安全と水はただ」という文化は、お互いがお互いを気にし合う社会で醸成されるものだという事だ。互いの配慮が欠けた文化はもはや危険に満ちた社会を生み、そこには身近な危険がいっぱいある。水は数年前からスーパーやコンビニで買うのが当たり前になってきた。次は安全である、一体どこで買うことができるのだろうか。（広報編集委員 藤谷 克己）

<事務局からのお知らせ>

1. 分科会連絡先

教育実践分科会

主査：後藤和廣

TEL. 03-3291-8921/Fax. 3291-8930

e-mail: gotokaz@aol.com

リスクマネジメントシステム研究分科会

主査：指田朝久

TEL. 03-5288-6584(直)/Fax. 03-5288-6590

e-mail: t.sashida@tokiorisk.co.jp

リスク事例サロン分科会

主査：島田公一

TEL. 03-5423-1070/Fax. 03-5423-1074

e-mail: ko-shimada@ioi-research.co.jp

ご連絡は、都合により暫くの間下記主査代行までお願いいたします。

Tel: 047-338-6185 Fax. 047-338-6185

主査代行：小島修矢

e-mail: kojimash@mb.infoweb.ne.jp

メディカルリスクマネジメント分科会

主査：大川 淳

TEL. 03-5803-4513 /FAX 03-5803-4513

e-mail: okawa.merd@tmd.ac.jp

企業活性化研究分科会

主査：古山 徹

TEL. 03-5295-6217/FAX 03-5295-6329

e-mail: furuyama@nikkeimm.co.jp

価値ベース・リスクマネジメント研究分科会

主査：藤江俊彦

TEL. 047-372-4111/FAX047-373-9919

e-mail: fujie@cuc.ac.jp

2. 新入会員紹介

氏名	所属
栴岡 源一郎	千葉商科大学
依田 光広	国際経済研究所
山本 潤二	ミュージックリー・ジャパンサービス株式会社
佐藤 利穂	エーオン ベンフィールド ジャパン株式会社
賛助会員	クエスト コンサルティング ロンドン

3. 住所・所属等変更の連絡方法

会員各位の自宅のご住所・電話番号・所属機関の名称・所在・電話番号・職名等について変更の生じた場合には変更前と変更後を並記のうえ必ず文書にて事務局宛ご連絡ください。

発行 危機管理システム研究学会

〒140-0013 東京都品川区南大井 6-3-7

スリージェ南大井ビル (株)リムライン内

TEL. 03-5753-0080 FAX. 03-5753-0086

2010年3月20日発行

e-mail: arimass@muh.biglobe.ne.jp

<http://www5b.biglobe.ne.jp/~arimass/>

印刷 株式会社 文典堂 03-3762-0721